省エネ技術最新情報

新晃工業

「ヒートポンプ空調機Ⅱ」で最適空調を

中規模ビルから大空間まで

充実したサポート体制で対応

優れた設計自由度 最大10台まで接続

昭和二十五年六月に業務用冷暖房機器の製造販売事業者としてスタートし、来年設立七十周年を迎える新晃工業（社長・武田昇三氏）は、「豊かな創造力と誇れる品質」を経営理念とし、国際的な喫緊の課題である低炭素社会の実現に向け、長年わたり培ってきた技術力のより一層の向上と、高効率・省エネルギー機器の開発・普及に取り組んでいる。

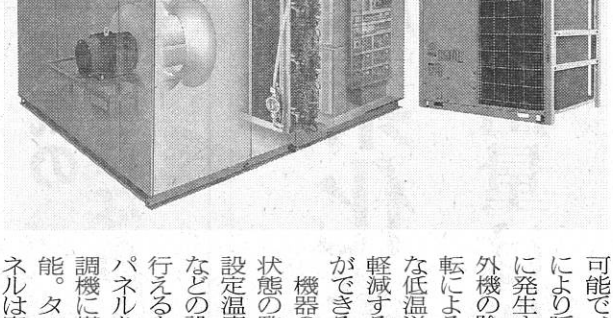
同社の「ヒートポンプ空調機Ⅱ」は、空調機と室外機を刷新し、室外機の自社供給体制により、新晃プランドで冷媒システム全体を設計可能とした製品。

空調機は最大八万立方㍍／時まで幅広くラインアップ。高静圧への対応も可能で、中規模ビルから体育館や工場等の大空間まで幅広く対応する。

室外機は八～五十四馬力をラインアップ。それらを最大十系統まで接続することで、五百四十馬力相当の室外機接続が可能。幅広い空気条件下で使用することができる。

室外機の運転可能範囲は、夏期冷房時マイナス五度～四十三度（DB）、冬期暖房時マイナス二十度？二十二度（WB）と幅広く、猛暑極寒にも対応できる空調設計が可能である。

空調機と室外機をつなぐ配管は、配管実長百六十五㍍、高低差五十㍍まで、自由度の高い配管設計が可能。また、室外機は最大五十四馬力まで冷媒配管統合が可能で、これにより配管施工の簡略化が可能となるため、施工コストの削減と工期短縮を図ることができる。



ヒートポンプ空調機Ⅱ

一方、冷媒配管の分離も可能で、これにより暖房時に発生する室外機の除霜運転による過度な低温送風を軽減することができる。

機器の運転状態の監視や設定温度制御などの設定が行えるタッチパネルを、空調機に搭載可能。タッチパネルは室内設置にも対応する。また、一般的なModbus、BACnet等の通信プロトコルに対応し、さらにWebによる空調機監視機能も利用可能。監視室などでの運用管理、制御が容易に行える。

二十馬力以上の室外機は、主機種をローテーションすることで、低負荷時の運転時間を分散し、室外機の長寿命化を図ることができる。また一台の空調機に複数台の室外機を設置することで、一台の室外機が故障しても、修理までの間、応急運転（バックアップ運転）を行い、空調の完全停止を回避する。

負荷に応じた冷媒容量制御によりオーバシュートやハンチングを抑え、高精度な給気温度制御を実現。温度設定の変化にも高効率な運転を維持し省エネに貢献する。設計風量の二〇～一〇〇%まで広範囲な制御が可能。低負荷時でも効率の良い空調で省エネに貢献する。

個別分散機器と比べ大風量対応が可能なため、設置機器台数が少なく、また空調機は屋上や機械室に設置されるため、居室内に入ることなく加湿器やフィルタのメンテナンス作業を集約できる。

同社は、国内製造による製品供給システムと、国内十三カ所のサービス拠点による充実したサポート体制を構築。設計自由度に優れた「ヒートポンプ空調機Ⅱ」による最適な空調システムの提案を始め、空調機の設計から設置、アフターサービス、リニューアルまで、全国に広がるSINKOグループのネットワークで対応している。

今後も同社は、ユーザーの要望に応える製品やシステムの開発と、快適環境の創造、迅速なサービスの提供に力を入れていく考え。

サーバーウォール発表

高顕熱処理対応直膨空調機

新晃工業（大阪市北区、社長・武田昇三氏）はこのほど、小中規模のサーバールーム向け高顕熱処理対応直膨空調機「サーバーウォール」（DE－MR型）を発表した。

サーバールームの空調対策は、IT環境の信頼性と同時に省エネ・省コストを考える上で重要な課題となっている。

今回同社が発表したサーバーウォールDE－MR型は、直膨空調機でありながら、湿度を下げずに安定した室内温度を保つ高顕熱対応型製品である。